

平成 28 年 2 月 1 日

京口門だより No. 28

暖冬といわれながら、寒い寒中でした。2月3日は節分、4日は立春となります。「春たつやこずえの雪にひかりさす」(青羅)

このところ、インフルエンザの流行やおたふく風邪(流行性耳下腺炎)が流行っているとニュースにありました。こうしたウィルス性の感染症に対してどう対処するかは大きな問題です。ワクチンが次々と作られ、予防接種によって防ごうという方法がとられています。だがワクチン接種で完全に防げるとも限りません。インフルエンザの予防接種をしたのにかかってしまったという方もいます。むろんワクチン接種によって病気が重くなるのを防ぐ意味もあります。

こうしたウィルス感染症は実際にかかるとなかなか適切な治療法がなく、とくに小児のウィルス性感染症は安静と対症療法しかありません。

おたふく風邪もかかると、たいがい両方の耳の下が赤く腫れ、痛みがあり、頭痛や食欲不振などが起こってきます。安静にして学校も休まねばなりません。こうした時期に漢方薬を用いると耳下腺の腫れやほかの症状も早く良くなってゆきます。小児だけでなく、大人の耳下腺炎でも大変早く治ります。子供の場合はいろいろな合併症が起こりやすくなりますが、漢方薬で治療することで、発症を防ぐ意味もあります。

ハシカ(麻疹)もよく見られるウィルス感染症です。予防接種により多くは見られなくなりましたが、それでもかかると、全身のだるさ、発熱、目やにや鼻汁が出て、咳が出ることもあります。はじめはインフルエンザかと思ましがうこともあり、そのうち全身に小発疹がくまなく出てきます。よく中耳炎の合併症を起こすことが知られています。このような発熱から発疹のする時期に、漢方薬を用いると全身症状も発疹も早く落ち着いてきます。かつて大人の重症のハシカを治療したことがあります。漢方薬によって高熱も発疹もすばやく消えていったことがありました。

三日ハシカ(風疹)も妊婦さんがかかると、子供に重大な影響があるといわれますが、漢方薬を用いると経過が短く、軽くすむこととなります。

そのほか小児の手足口病、ウィルス性胃腸炎などにも漢方薬をうまく使うと早く良くなります。早めに相談いただければよいと思います。

